

林 悩 煩 遊

お盆の法要

お盆の期間

七月十三日より十六日

八月十三日より十六日

左記のとおりお盆の法要をお勤め致します。万障繰り合わせの上ご参詣下さい。

七月十六日（木）

午後六時より

衆僧総供養読経

法話

右記が一般的なお盆の期間となります。しかし土地によって期間の違いがありますので七月中旬より八月いっぱいまで、ご自宅、お寺でのお盆の読経を承ります。

尚、伺うお家が多いのでご希望のお宅は早めにご連絡ください。 住職

順正寺

練馬区石神井町3の17-4

03-3996-2064

時々、「フーテンの寅さん」のビデオを観ます。好きなんです。小学3年生で初めて観てからこのかた渥美清さんが亡くなるまで「お盆」と「お正月」は必ず映画館に観に行っていました。先日観た巻で寅さんは相変わらずの惚れた腫れたのすったもんだで妹の「さくら」に叱られています

さくら「そりや夕子さんは誰が見たって素敵な人よ、でもお兄ちゃんには関係がない人よ」

寅「そんなことは言わなかったってわかってるよ、けどよ、頭の方はそうわかってるけど、気持ちの方はついてきちゃくれねえんだよ。だから俺の所為じゃないんだよ」

さくら「気持ちだってお兄ちゃんのものでしょ？」

寅「そこが違うんだよ、早い話がよ。俺はもうこの柴又に2度と戻って来ないと思ってもだんな気持ちの方はそう思っちゃくれねえ。アツと思うとここに戻ってきちゃうんだよ」

やくざな寅さんにとって故郷の柴又は帰れば甘えて騒動を起すのは本人も承知で帰っちゃいけないと頭では解っ

ている、しかし恋してしまうのも故郷柴又も「気持ち（ころ）」の領域なんですね。そしていつでも帰れるところがあるからこころの依りどころがあるから寅さんは旅を続けていられるのです。あなたには帰れる故郷がありますか？

「お盆」は「仏さま」が「どこか」からこの世に還ってきて、四日ほど滞在して、また「どこか」に還って行くらしい。「どこか」って漠然としていますね。でもそれが知識でしか物事を認識しなくなってしまう私たちの限界なのかもしれません。古来我が真宗ではその「どこか」を「お浄土」とはつきり言っています。私たちは「浄土よりご縁を頂きこの世界に私として生まれさせていただき、この世の縁尽きていのち終わる時また浄土に還って往く」と教えられています。

真宗門徒の故郷は「お浄土」なのです。

お盆が近くなると仏具屋さんやデパートではお盆グッズが、八百屋、花屋、スーパーでは盆飾りの花や野菜が売り出されます。しかし私たち浄土真宗の家では「お盆」だからと言って特別な飾りつけを致しません。また、お迎え火も送り火も焚きません。浄土真宗以外の宗派では「お盆」には3泊

4日で「仏さま」が還つて来られるので特別にお迎えするわけですが、私たちの「仏さま」はいつでもどこでも一緒にいて下さる「仏さま」なのでいつも通りしていれば良いということなのです。ただ、思い違いをしていけないのは、「浄土真宗は簡単でいいですね」「合理的でいい」とか仰る方がいますが、確かにほかの宗派に比べて儀式も飾りも質素で在りませんが、それゆえ「門徒もの知らず」なんて揶揄されることも有りますが、これは毎日を仏事の日として仏さまとともに生活をしているから普段通りで良いということ、けっして私たちの都合のいいように質素で簡素なわけではありません。毎日の事なので特別な事はしないので「もの知らず」なんて揶揄されますが、にもかかわらず古来「真宗門徒は一番仏さまを大事にする」とも言われます。期間を決めてその時だけ特別なことを行う他の宗派とは違うのです。

じゃあなんで浄土真宗なのに期間決めて「お盆」やるの？最近ではインターネット等で情報が得られることも多く中には「浄土真宗ではお盆やらないんですよね」と聞かれることも有ります。地方によっては月忌参りと云って毎月ご命

日に僧侶がお勤めに行く習慣があります（仏さまが3人だったら毎月3回、4人だったら4回その家に伺って勤めます）。ですから敢えてお彼岸とかお盆のお勤の必要がないのです。これが浄土真宗の伝統でありましたが今ではすっかり生活習慣も変わり毎日仏事をお勤めすることもできにくくなりました。特にこの東京ではそれが顕著です。そこで「お彼岸」「お盆」ともに期間を定め亡き人の思いを聴き、わが身を顧みる時間とするものです。日々忙しく手を合わせることも忘れがちな私たちです。せめてこの期間、寅さんではないけれど、頭（知識）だけではなく「こころ」の声を聴いてみましょう、私の帰る故郷に思いを馳せましょう。因みに「忙しい」って立心べんつまり「こころ」を「亡くす」と云う字です。

余談ですが浄土真宗ではやらないけれどお盆の時期に軒先で素焼きのお皿に藁かなんか燃やしてお迎えの火と送りの火を焚いてる風情はいいな、私は好きだなあ。

また「寅さん」観たくなった。

合掌

お釈迦さまは、言葉というものは非常に危険なものである、と示唆してくださっています。人が生まれたときには、実に口の中に斧が生じている。人は悪口を語って、その斧によって自分自身を斬るのである。(經典 ウダーナヴァルガ)

そして、私たち人間は言葉を使ってお互いの意志の疎通を図ろうとします。対話を通して、自分の言いたかったこと、自分の考えが、改めてまとまっていきます。自分の得手勝手も見えてきます。言葉にしてみても、相手に伝えようと試行錯誤して対話をしていると、はじめて自分がどういう心境であるのかに気付かされることもあります。「ああ、わたしはこんなことを考えていたんだ」「わたしは今怒っていたんだ」そんなふうに気付かされます。

自分の言葉に酔って、相手の言葉を聞かず、ただただまくし立てているだけでは何も解りません。相手に自分の本意が伝わっているのか、自分の本意とは何なのか、相手はわたしに何を

伝えたいのか、相手の本意と自分の考えのズレはどこにあるのか、そもそもお互いに目指すところは違うのか、それとも同じなのか、相手の言葉を聞くことによって自分の考えも初めて明らかになってきます。だから、人間は言葉を大事にしてきたのです。対話を大事にしてきたのです。

言葉を発したら、その言葉はその瞬間「わたし」のものではなくなります。その言葉を受け取った人のものになるのです。悪気なく言った言葉でも、人を傷つけたり、怒らせてしまうことはままあります。その逆に、相手に言われた言葉に傷ついたり、怒りを感じてしまい、よくよく考えてみると、相手の発した言葉の本意は優しさであったり、愛情から出た言葉であったりする、そんなこともあります。言葉尻だけを聞いて話をしていると争いになるものです。相手に言葉で勝つ事を考えての会話(争論)はまったく無益なものであります。会話(対話)は勝負事ではありません。

いま、私たちの社会は、先ず自分で答えを用意して、その答えを相手に押し付ける。相手の言い分を聞いてはダメ。相手の立場など関係ない。どんな時でも黒白をはっきり着ける。相手を言葉で容赦なく、完膚なきまでに叩きのめす。そんな言葉の戦いが渦巻いているようにおもえます。

浄土は言葉の要らぬ世界である

人間の世界は言葉の必要な世界である

地獄は言葉の通じない世界である 曾我量深

曾我量深という先生の言葉によれば、まさに今の私たちの社会は地獄なのかもしれません。言葉が通じず、争いを旨とした会話の社会です。

勉強をして、何ヶ国語も話せるようになったとしても、お互いの本当に言いたいことを理解しようとしないのであれば意味は無いのです。

母親が、言葉のまだ話せない赤ちゃんが伝えたいことを、その表情から、泣き声から、笑い声から、一生懸命聞き取ろうとする姿、そこに本来の対話の姿があるような気がします。

伝えようとする者があり、それを受け止めようともがく者がある。お互いが争いを避けるために言葉で繋がろうとし、その言葉を聞こうとする。そのために人間は言葉を作り出したのでしよう。その道筋を面倒臭がらないで歩んでいくことが今の私たちの社会にかけているのではないでしようか。

私たちは、どうしても自分の考えに陥り、そこから抜けだせずにいがちです。反論者に対して暴言、強言を吐いてしまします。だからこそ、相手の言葉を、言葉の真意を聞き取ることに努めなければ、罵り合いになってしまします。言葉で分かり合おうとする私たちは、時として、その言葉で争ってしまうような、自分の心と言葉すらコントロール出来ないのだということ、頭の片隅に置いておきましょう。そして、争論ではなく、対話を大事に。目指しているのは、解らせることではなく、やり込めることではなく、分かり合うことなんだ、ということをお忘れなく、副住職

最近「ご住職スマートになりましたね」と言われる。糖尿になって2年、毎日ジョギング、地道な努力の成果だといぼりたいが、私の辞書に地道なんて言葉は無い。血糖値上げちゃうからしょうがないので走るのだ。昔、高田馬場駅前の予備校に「継続は力なり」と書いてあった。車窓から見るとズン、うわ、ごめんなさい」と思ったもみた。が、しかし、親は特に反面教師だった。卯美美（中卒の娘）が大学受験に向けて今から地道に勉強するとひぼく。

「お前ねそんなのおもしろくないよ、父さんとみたく行きあたりぼったりにせると人生おもしろい」と、含蓄ある助言をしてやったのに「ハハみたに計画性の無い人にならうないから」やっぱり寅さん観よう。

住職からのお願い

先日テレビでも放送されましたが今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることがあります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い申し上げます。

定例行事

聞法会

毎月2日 午後七時より（8月はお休みです）

現在、鉛筆写経と座談会やっています

グリーンフケアの会「微妙音」

六月十四日 午後二時より

白色白光の会（婦人会）毎月第二木曜

お経の練習と法話と茶話会です

終活を考える会

七月五日 午後二時